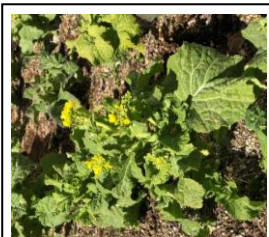




今年度のまとめに向けて

▼立春を過ぎたとは言え毎日寒い日が続いています。本年度の教育活動も大詰めを迎え、卒業式まで20日、修了式まで35日となりました。▼山梨県知事からの臨時特別要請によって始まった「分割授業」は、昨日の再度の要請により2月27日まで延長されることになりました。▼この一年、学級をベースに活動してきた、その最後のまとめの1ヶ月が本来の形でできないことはとても残念ことであり、特に卒業を間近に控えた3年生にとっては、その思いは強いものと推察します。▼また、1学級増による教員の授業時数増は、大きな負担となっていて、きめ細かな指導や質の高い授業を行う上で、障壁となっていることから、早い要請の解消を望んでいます。▼しかし、山梨県下で連日400名前後の感染者が発生している現状においては、この要請を重く受け止め、引き続き、本校としても、感染症対策に万全を期して参りたいと考えます。合わせて、部活動についても、要請期間中は行いませんのでご理解ください。▼しかし、この間にうれしいニュースもありました。それは2月8日に公立高校前期入試の結果発表があり、本校では受検者全員が「合格内定」をいただくことができました。また、すでに私立高校等受検者の合格も続々と届いております。▼また、昨日から後期入試受付が始まり、本校でも出願作業を無事に済ませることができました。後期試験は2週間後の3月3日になりますが、この間、健康管理に万全を期し、ベストの状態を当日を迎えて欲しいと思います。▼1・2年生も24日と25日に期末テストが行われます。すでに取り組んでいるとは思いますが、この一年のまとめをしっかりと行い、次年度につなげるためにも、計画的に学習を進めて欲しいと思います。▼私たち職員も、子供たちと過ごす1日1日を大切にしながら、この1年のまとめがしっかりできるよう全力を尽くして参ります。引き続き、よろしくお願いいたします。



本校花壇の菜の花です

勉強には習慣化が必要

▼全日本中学校長会での記念講演、東京大学薬学部の池谷裕二教授による「学習、成長～未来の脳を考える～」の中で、とても参考になるお話しがありましたので紹介します。(中学校N0820より)

- ・今の14歳の人の寿命の中央値は107、中学生は22世紀まで確実に生きる。教育とは次の世紀を担う人材の育成である。
- ・脳と他の臓器との決定的な違いは、脳は知能を生み出すことである。知能を支える3つの要素として「論理力」「言語」「熱意(やるき)」がある。
- ・熱意とは「わくわくする力」すなわち、知ることを楽しむ好奇心。これが大切。
- ・「失敗は成功のもと」と言われるが、どんな失敗でもいいわけではなく、学習の最初にしたうちの失敗だけが有意義なものとなる。中学生段階では、あれやこれや間違えることが、プラスになる。
- ・脳は作業を始めることによって興奮してくる。やる気は行動の原因ではなく結果でしかない。だから、やり始めない限りやる気は出ない。
- ・やる気は、場合によっては悪い影響を及ぼすこともある。「やるぞ!」と気合いを入れて仕事を始めたグループと、そうでないグループで比べたところ、最終的に仕事がかどるのは後者で、1.5倍くらいパフォーマンスが高かった。その理由は「やる気の最大の欠点は一過性」であること。つまり勉強や仕事で大切なのは「継続できる力」「じわじわ長く続けられる力」
- ・勉強には「習慣化」が一番のポイント。習慣化により、脳は「めんどくささ」を感じなくなる。実験によると習慣化には66日を要する。つまり何かを始めたら、とりあえず2ヶ月くらいは続けることで習慣化できれば、脳を一番負担なく使えることになる。
- ・記憶は「覚える・獲得する」段階と、「固定化する」段階の2つが必要で、これは同時にはできない。覚えた直後の情報を整理整頓するのは睡眠。だから「寝るのも勉強のうち」。